

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

7月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数57件（前月比0.2、前年同月比28.5）で、2月をピークに減少傾向が続いており、57件と少数ですが昨年同月（2件）と比較すると7月としてはやや多い状況です。宇城、菊池、熊本地区から報告がみられます。

小児科定点

（全体傾向）

報告数5,203件（前月比0.94、前年同月比1.59）で、6月と比較しほぼ横ばい状態です。今年増加が目立つA群溶連菌咽頭炎は減少し例年並みの件数となっています。その他、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、突発性発疹症の減少を認めました。一方、手足口病、ヘルパンギーナは7月に入りさらに大幅な増加を認めました。また件数は少ないものの、4月から少数で推移していたRSウイルス感染症が7月は増加に転じました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数65件（前月比6.5、前年同月比1.4）でした。1月から漸減し5月、6月はそれぞれ10件でしたが、7月は増加に転じました。年齢的には1歳台をピークとして2歳以下が大部分です。全体の6割強が菊池地区からの報告でした。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数108件（前月比0.7、前年同月比2.0）でした。5月、6月と増加を認めましたが7月は減少に転じました。例年と比較するとまだ多い件数です。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数271件（前月比0.3、前年同月比0.9）でした。1月から毎月増加傾向を認め6月は908件と例年になく多い件数でしたが、7月は大幅に減少し例年並みの件数でした。菊池地区からの報告が目立ちます。八代地区も若干多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,246件（前月比0.6、前年同月比1.0）でした。1月から減少傾向を認め、6月に増加に転じたものの、7月には再び減少し今年最も少ない件数でした。菊池、有明、山鹿、八代地区からの報告が多いようです。
5. 水痘 : 報告数64件（前月比0.8、前年同月比1.4）でした。1月から減少傾向が続いています。件数は少ないものの毎月昨年を上回っている状況で、4割が菊池地区からの報告です。1歳台が最も多く、1歳を迎えたらできるだけ早く予防接種を受けることが大切です。
6. 手足口病 : 報告数2,014件（前月比2.0、前年同月比16.5）でした。夏季のピークがみられなかった昨年と比較し、今年は6月、7月と急峻な増加を認め例年並みの推移と考えられます。すべての感染症の中で最も多い報告件数でした。有明地区からの報告が目立っています。
7. 伝染性紅斑 : 報告数7件（前月比0.9、前年同月比0.1）でした。今年は1月から毎月20件未満の少数で推移しています。
8. 突発性発疹 : 報告数138件（前月比0.6、前年同月比0.9）でした。7月は減少に転じましたが年間を通じて大きな変動はないようです。
9. 百日咳 : 報告数4件（前月比1.3、前年同月比4.0）で、今年は1月から4月まで0件、5月1件でしたが、6月3件に続き7月もやや多いようです。年齢はいずれも10～14歳台で菊池地区3件、水俣地区1件の報告でした。

10. ヘルパンギーナ : 報告数1002件(前月比2.5、前年同月比1.5)でした。6月、7月と急峻な増加を認め、7月は昨年同月を上回る件数でした。例年並みの推移と考えられます。菊池地区からの報告が多く水俣地区が続きます。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数57件(前月比0.6、前年同月比0.1)でした。1月から漸減して推移し、7月は最も少ない件数でした。昨年が多かったため今年は毎月前年同月を下回る件数です。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数1件(前月比1.0、前年同月1.0)と増減はありません。熊本から40歳代1件の報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数58件(前月比1.0、前年同月1.8)で前年同月比は増加しています。熊本55件、有明3件の報告で、その他の地域からの報告はありません。20~49歳代にピークがありますが、乳幼児層にも感染拡大の注意が必要です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数45件(前月比1.0、前年比0.8)で、前月比は同数で、前年比は減少しています。男女別は、男性21件、女性24件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は20~69歳と幅広い年齢に見られ、女性は15~49歳に見られます。地域別は、熊本が33件、次いで菊池4件、御船、有明各3件、八代、人吉各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数8件(前月比0.3、前年比0.3)で前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性5件、女性3件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は35~64歳に見られ、女性は35~70歳以上に見られます。地域別は、熊本7件、八代1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数3件(前月比1.5、前年比0.5)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性1件、女性2件でした。年齢別は、男性は30~34歳に見られ、女性は15~24歳に見られます。地域別は熊本2件、八代1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数19件(前月比1.1、前年比0.9)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性18件、女性1件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は20~59歳に見られ、女性は40~44歳に見られます。地域別は、熊本が18件、八代1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は14件(前月比:1.0、前年同月比:0.7、男女比:8/6)で3月をピークに減少傾向にあります。熊本地区(4)、人吉地区(3)、有明地区(3)、八代地区(2)(以下略)と広範囲に認めます。70歳以上(10)をピークに各年齢散発性に検出されました。
▼H27, 28では夏季6-10月頃の安定経過を認める傾向にあります。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は4件（前月比：0.8、前年同月比：1.3、男女比：2/2）で5月以降減少傾向にあります。熊本地区(3)、有明(1)の報告でした。1-4歳(1)と70歳以上(3)と二峰性を示しました。
▼H27, 28に比較し少な目で推移しています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-）でした。前月に引き続き報告はありませんでした。
▼H29. 3月(1)以降報告はありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：-、前年同月比：1.0）で例年並みと言えます。阿蘇地区からの報告で55-59歳(1)でした。
▼H27, 28では10月ごろからの増加傾向にあります。夏季の報告は0-1件です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は5件（前月比：0.8、前年同月比：0.4）で3月以降増加横向き推移にあります。熊本地区(4)、天草地区(1)からの報告でした。15-19歳(2)、25-29歳(1)、30-34歳(2)でした。
▼H27, 28では7月から9月ごろに多い傾向にあり、今後とも注意が必要です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は6件（前月比：0.5、前年同月比：0.1）で一転、減少傾向を認めます。熊本地区(6)からの報告で1-4歳(1)、5-9歳(2)、10-14歳(1)、45-49歳(1)と70歳以上(1)でした。
▼H27, 28では7月以降の急増を認めましたので、引き続き注意が必要です。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で前月に同様、報告はありませんでした。
▼H28. 12月(1)のみでした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）： 報告数は6件（前月比：0.3、前年同月比：2.0）で前月に比較し減少、例年並みとなっています。熊本地区(6)のみと偏りを認めます。0歳(1)、ピークは1-4歳(5)でした。
▼H27, 28にくらべ2か月程度の遅れを見せつつ減少傾向にあります

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	24件
3類感染症	： 細菌性赤痢	1件
4類感染症	： 日本紅斑熱	2件
	レジオネラ症	7件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
	クリプトスポリジウム症	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
	梅毒	4件
	播種性クリプトコックス症	1件